



おおば まさあき
大場正昭

議員



災害時のマンホールトイレ整備促進を

問 マンホールトイレの現状と整備の考え方は。

答 現在、さわやかアリーナや袋井西コミュニティセンターなど、8箇所の公共施設に49基整備されている。今後は長期的な災害対応が必要となる拠点施設や大規模避難所となり得る施設を整備する際に、必要に応じて対応したい。

問 女性視点の避難所のマンホールトイレ対策は。

答 男性より女性用トイレを多めに設置するとともに、「安全全面を考慮して、人目に付きやすい場所に設置する」「男女別に区分けし、性別マークや使用中の札を付ける」「夜間でも使用できるように、内外に照明を設置する」「サンタリーボックスを設置することとしている。



携帯トイレ

問 マンホールトイレ以外のトイレの対策は。

答 避難所の避難者数から換算した場合612基のトイレが必要であり、それに対し避難所や支部防災倉庫にある仮設トイレ193基及び簡易トイレ513基、業者から調達する仮設トイレ130基を合わせた836基が整備される予定であり、必要数を満たしている。市民の方には携帯トイレなどを7日分備蓄するように啓発したい。



あんなま けんじ
安間 亨

議員



障がい児放課後児童クラブの今後は

問 障がい児放課後児童クラブ事業の今後の在り方に対する見解は。

答 今後においては、障がい児放課後児童クラブ利用者数の減少を踏まえつつ、保護者のニーズや委託先事業所の意見を聞きながら、当事業の在り方を検討していきたい。

問 今後の在り方を検討する上で、現在の利用者が困ることのないように、また、安心できるように十分配慮していただきたいがどうか。

答 利用者が困ることのないように、廃止ありきの議論ではなく、当面は現状維持の運営をしていくつもりである。保護者や事業者の皆さまのご意見を丁寧にお伺いするなかで、方針を定めていきたい。

最小の経費で最大の効果を

問 ナッジを活用した取組を全庁的に推進すべきでは

答 職員が効果的な事業に取組む上で結果的にナッジを活用した事業を既に実施しているところである。今後においても、これまでと同様に、市民目線に立ち、市民に寄り添いながら、必要最小限のコストで最適な効果が得られるよう、取組んでいきたい。

※自然と良い行動に相手を導く手法



ナッジの取組イメージ

メロンのまち再発信に向けて

問 本市の認知度と存在感をより一層高めるべく、「全国メロンサミットinふくろい」の開催についての考えは。

答 クラウンメロンの一大産地の地元として、どのような応援ができるか、今の時代に合ったイベントの在り方も含め検討したい。

生産年齢人口減少への対応は

問 地域社会を取り巻く環境の変化と課題への対策に向けてどのような方策を講じていく考えなのか。

答 人口問題は、市政の発展における重要課題であり、第三次総合計画策定の中で、今後の施策の方向性や取組を整理し、全庁を挙げ、人口減少の抑制に取組んでいきたい。



たかぎ きよたか
高木清隆

議員



包括管理業務委託は

問 教育施設における、包括的管理業務委託に向けての見解は。

答 委託を行う対象施設・業務範囲の設定、費用対効果に加え、地元業者の育成や振興などの観点も踏まえ、維持管理などの業務が安定的に継続して適切に行われる体制の構築、導入に向けた検討をさらに深めていきたい。



前回(平成27年)の全国メロンサミット in ふくろい